

これからの歩行空間を提案

10年後の歩行って

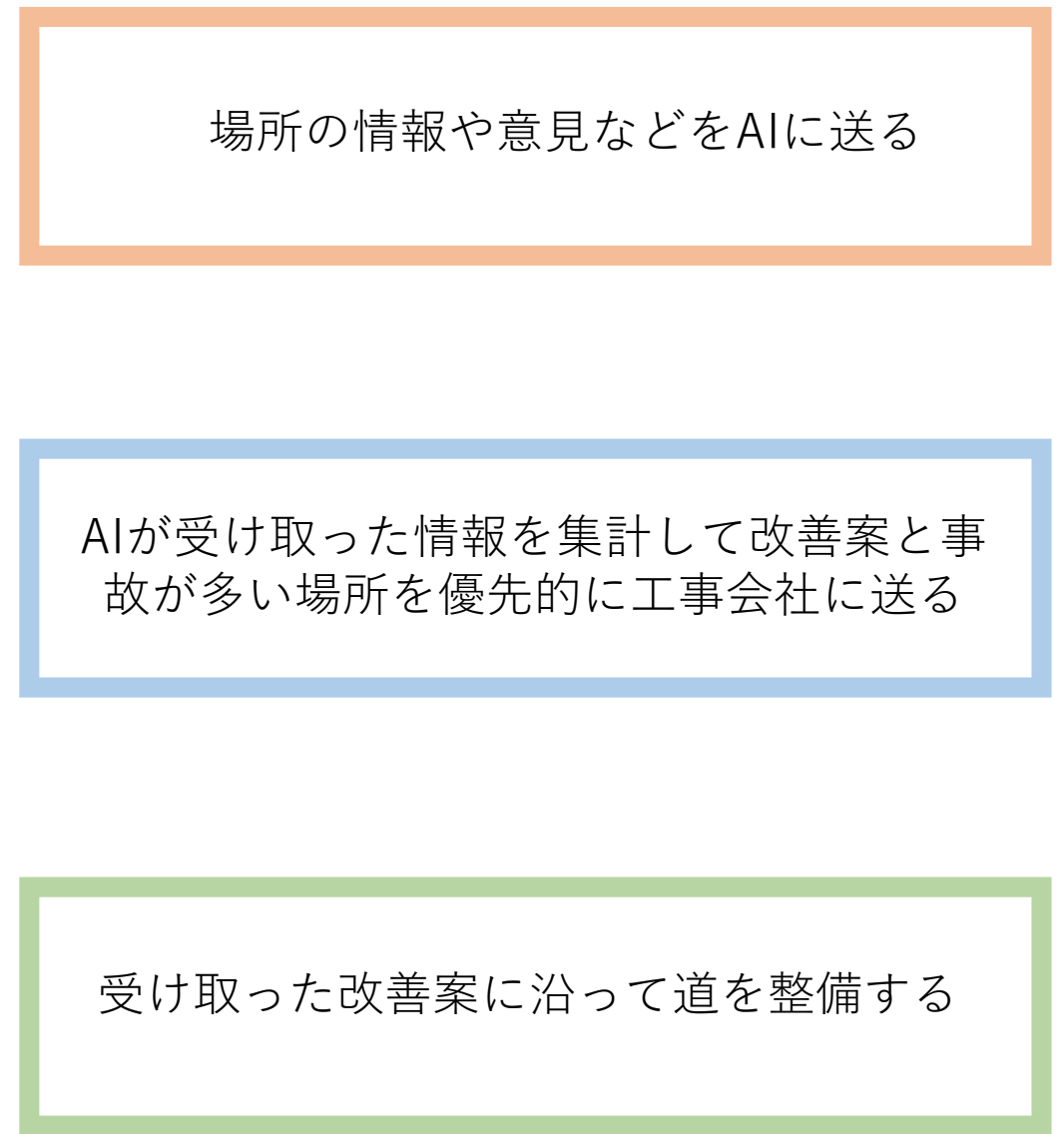
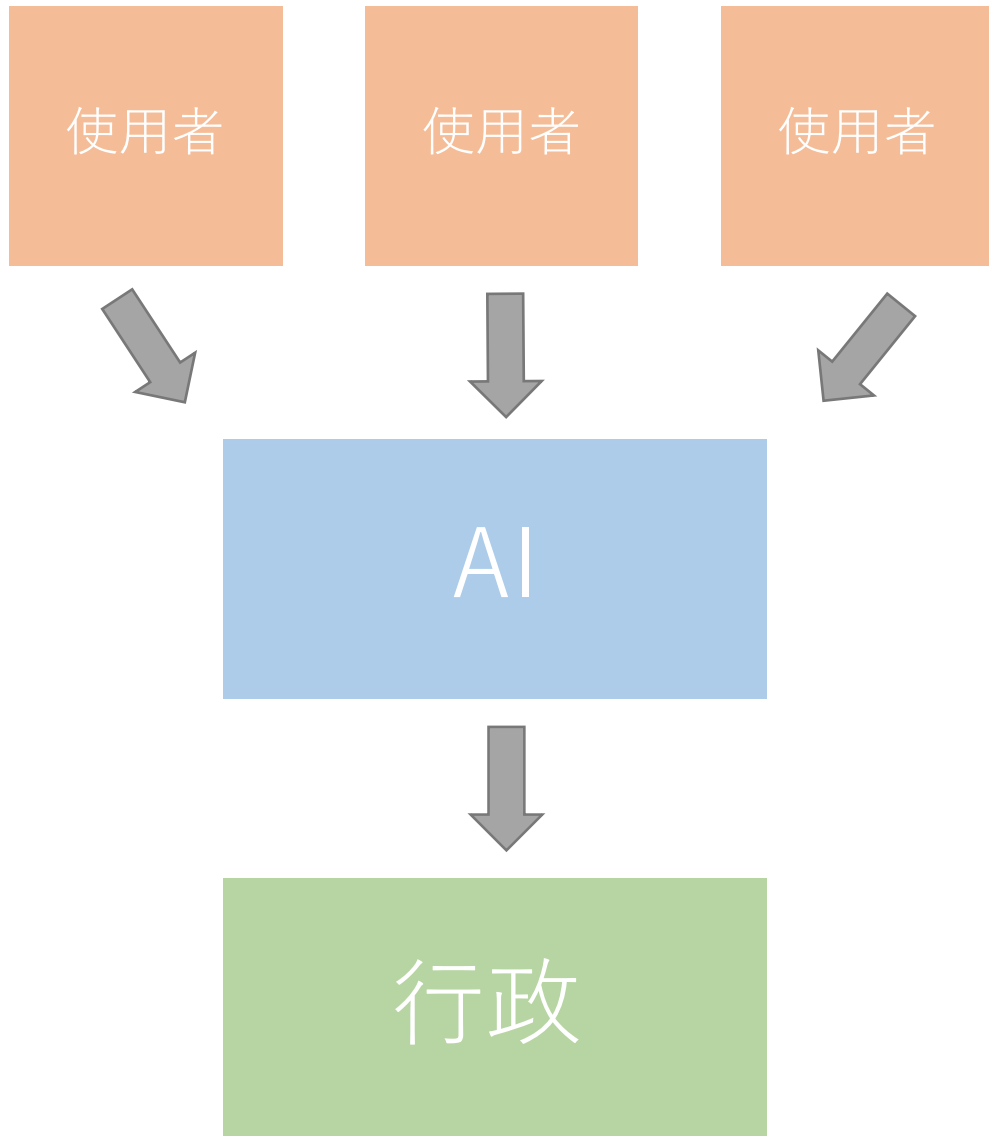
現在ARのシステムは軍事的なものに使用されていて、ARで電子光学センサーの映像を見ながら遠隔で射撃をしたり、実際に戦闘機や攻撃機を飛ばさなくても仮想の機体を表示して訓練に利用できたりしています。

その技術は10年以内には民間に提供され、一般的に実用化できそうなARメガネが開発され、スマホの様に生活費需品になっていると思います。

10年後にも今と同じように道路に段差やでこぼこした道、いらぬ障害物などがあり、危険があると思います。
なので、普段つけているであろうARメガネに取り付けられてこれからの未来にも貢献できるシステムがあったらいいのではないかと思います。



取り付けたセンサーなどで町の細かい場所などを
スキャンできてかつ歩行者の意見が聞けるシステムを提案します。



システムを使用することによる効果

- ・ アプリで使用者の意見をダイレクトに聞くことができるため、具体的なその場所の状況などが詳しくわかる。
- ・ 小さな段差などにつまずいたり事故が起きにくくなる。
- ・ 段差などを改善されていくので、バリアフリーになり歩きやすくなる。

まとめ

現状、このようなシステムはなく、段差や障害物があった際に、ほったらかしになっていたり、報告をしたりしなくてはならず、高齢の方や障害を持っている方、子供たちなどいろいろな人の声が行政側に平等に届きにくいのが問題です。

しかし、このシステムを使用することにより、私たちが行政に報告をしたりしなくても、センサーがその場をスキャンをして、私たちが手間をかけずにそれが行政に届くようになっています。また、元から入っているアプリで意見を言うこともでき、私たちの意見がダイレクトに行政側に伝えることができます。

これからは、私たちも歩行空間の改善に参加でき、より歩きやすい歩行空間を作ることができます。